

団体名		公益財団法人武蔵野健康づくり事業団						
事業	指標名	健康づくり支援センターホームページアクセス数			目標値	100,000件	実績値	91,918
	過去の実績	令和2年度	令和3年度	令和4年度	達成率	91.9%	達成状況	未達成
	(単位:件)	—	41,417	82,463				
	取組内容	①令和4年度の健康づくり推進員の情報発信推進チームの活動にて習得した「ホームページの効果的でスムーズな市民への紹介」のノウハウ(タブレットなどの端末活用)を活かして、健康づくり推進員の各地区活動の中で情報発信を推進した。 ②ホームページや動画配信等の紹介カードによる健康づくり推進員の周知活動やムーバス時刻表の広告掲載を行い、支援センターのホームページと事業団について広く市民に周知した。 ③他部署や地域団体等と連携した情報提供や、募集受付期間中の健康づくり情報の掲載を引き続き充実させて発信した。 ④視認性を高め、情報発信機能を更に充実させるためのホームページ改修を行った。(トップページのピックアップをスライドショーに改修)						
	一次評価	トップページの改修による視認性の向上及び推進員による紹介カードやタブレット端末等を活用した情報発信により、昨年度と比較し11.5%増加したが、アクセス数にばらつきがあり、特に支援センター事業が少ない月はアクセス数が少なかったため、目標を達成できなかった。今後は1年を通じてアクセス数が一定数以上となるよう、更なる情報の充実と見やすい等のホームページの工夫と、「自ら情報を得て健康づくりを実践していく市民」を増やしていく活動を健康づくり推進員の地域活動の中で継続実施していく。						
	二次評価	令和5年度は、推進員による情報発信やホームページ改修に加え、ムーバス時刻表への広告掲載やSNS・メールマガジンによる周知も実施し、アクセス数の増とアクセス後の情報提供内容の充実の両方に向けて取り組んでいることについて評価する。通年で安定したアクセスが行われ、目標値の達成が図れるよう、推進員の地域活動での周知等に加え、効果的な周知方法について検討されたい。また、市民の実際の行動につながるよう、ホームページ内容の充実についても引き続き検討されたい。						
財務	指標名	健診事業収益			目標値	50,000千円	実績値	48,386
	過去の実績	令和2年度	令和3年度	令和4年度	達成率	96.8%	達成状況	未達成
	(単位:千円)	43,851	45,965	47,686				
	取組内容	①人間ドックの市民周知や利便性向上の取組みを以下のとおり実施した。 ・キャッシュレス決済や自宅採尿の導入を新たに開始。 ・啓発チラシによる市民への周知、定期健診の受診勧奨ハガキの送付等を継続実施。 ・現在の実施曜日(火・木曜日)以外の試行実施や、Web申込み開始に向けての準備を実施。 ②一次・二次予防の連携として、健康づくりに関心の薄い働く世代や支援センター事業利用者を人間ドック利用につなげるため、健康づくり推進員による活動を推進した。 ③人間ドック健診施設機能評価認定取得準備委員会及びワーキングを立ち上げ、機能評価認定取得に向けて、質を高めていくだけでなく受診啓発や生活習慣改善につなげることをより重視した、公的な組織としての特徴を活かした人間ドックに改革していくための取組みを開始した。 ④人間ドックのふるさと応援寄付金の返礼品としての提供や健診予約代行機関への登録を引き続き実施した。						
	一次評価	目標設定時に、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけ変更等を勘案し、目標値を2,000千円高く設定した。人間ドック受診者は59人の増、オプション検査は89件の増となったものの、職域健診は87人の減となり、目標値には及ばなかった。人間ドック受診者のうち、胃バリウム検査を希望しない方の割合は40%であり、胃内視鏡検査を実施していないことが大幅な受診者増を見込めない要因の一つと考える。職域健診は、協会けんぽにおいて、事業団よりも安価な料金設定で実施しているため、事業団での利用は減っていく可能性が高い。今後は、人間ドックの新規オプション検査や健康度測定を取り入れた新しいコース、一次・二次予防事業を連携させた新たな事業やしくみについて検討、実施し、財源確保にもつなげていきたい。						
	二次評価	目標値には達していないものの、人間ドック受診者やオプション検査が一定数増加していることについて評価する。公的な組織としての特徴を活かした人間ドックとするための取組みを継続するとともに、利用者のニーズ把握に努め、そのニーズに応えた健診コースの新設や新規オプション検査の充実を図られたい。						
内部	指標名	人材育成指針に基づく人材の育成			目標値	職員研修計画に基づく研修及び職員の目標管理の実施	実績値	職員研修計画に基づく研修及び職員の目標管理の実施
	過去の実績	令和2年度	令和3年度	令和4年度	達成率	100.0%	達成状況	達成
	(単位:)	人材育成指針作成に向けた検討	人材育成指針の作成	職員研修計画に基づく研修の実施				
	取組内容	①人材育成指針に基づき研修計画を作成し、研修計画に基づいて研修区分の全てを活発に実施した。 階層別3回15人、通信1人、OJT3人、専門研修(法人管理・運営等)7回12人、専門研修(専門知識の習得等)39回39人、外部委員会等参加研修15種実人数8人、基本研修(全職員対象研修)8種130人、職員参加プロジェクト等3種49人、自主研修3人 ②階層別研修は主任昇任前の通信教育を1名に受講させるほか、主任・係長研修、評価者研修を新たに実施した。 ③全職員を対象として、ハラスメント研修、メンタルヘルス研修、人間ドック健診施設機能評価受審準備セミナーを新たに実施した。 ④令和6年度からの中期計画策定に向けた準備として、全職員対象のブレインストーミングやファシリテーター研修を実施した。 ⑤各種認定資格取得更新等の費用助成による促進サポートを新たに開始した。 ⑥研修の実施とあわせて、人材育成の観点から職員の目標管理を開始した。						
	一次評価	令和4年度からの計画的な研修実施に引き続き、令和5年度は更に新たな研修も加え活発に実施することができた。職員の目標管理も開始した。外部組織への職員の派遣研修については、外郭団体及び市と交換派遣について交渉したが調整がつかなかった。令和6年度は新たな中期計画策定に向けて実践的な研修を合わせて行い、計画策定を通じた人材育成も図っていききたい。また、職員の目標管理を人事評価と合わせて人材育成のツールとして更に活用していきたい。						
	二次評価	人材育成指針に基づき、計画に沿った研修を実施したことに加え、職員の意欲や能力の向上に資するような取組みとして、費用助成による資格取得促進サポートを開始したことなどについて評価する。新たに開始した職員の目標管理とあわせて、より主体的に研修に臨める機運の醸成やそれをサポートする体制、研修内容の充実等、組織全体の強化や活力向上を図れるよう取り組まれたい。						